

にっしん 農業委員会



日進市農業委員会

第7号

平成27年2月1日
編集・発行
日進市農業委員会
電話 (0561) 73-2197

だより



遊休農地を再生させた田で稲刈りをしています。

平成26年7月に日進市農業委員会の改選で会長に選任された内藤勝司でございます。

昨年の夏は記録的な雨量と日照不足、秋には台風の上陸もあり、全国的に農作物が被害を受けました。市内の農家の皆様も少なからず影響があったことと思います。こうした厳しい環境下でも日々ご尽力頂いている皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、わが国の農業をとりまく環境は大きく変わろうとしており、国においてはTPPへの参加交渉を始め、農業協同組合と農業委員会制度の改革が検討されています。国が目指す「強い農業」への転換期を迎えており、その動きを見守ってまいりたいと思います。

このような状況下、農業委員会では、耕作放棄地を把握するために農地の利用状況調査を行うとともに、そうした農地を経営の拡大を希望する農家や、新規で農業を始めた人などに貸借が出来る「農地バンク制度」のほか、新たに始動する「農地中間管理機構」を活用し、農地の有効利用を図る活動に取り組んでいきたいと考えております。

今後とも皆様の格段のご支援・協力を賜りますようお願い申し上げます。



日進市農業委員会
会長 内藤 勝司

日進の「農」を守り、
振興する
―農地を守る 農業委員会の使命―

地域の農業を守る活動 市内での鳥獣被害対策について

今年も、市内北東部でイノシシなど有害鳥獣による被害が発生しました。農作物への被害を確認されましたら、市役所産業振興課農務係へご相談ください。また、農業共済に加入していると被害の一部が補償される場合もありますので、詳しくは愛知県農業共済組合にご相談ください。



捕獲されたハクビシン



イノシシの被害にあった田

産業まつりに出店しました



産業まつりに出店し、遊休農地を再生させて作ったもち米や野菜を販売しました。経費を除いた売り上げは社会福祉協議会へ寄付しました。



平成26年11月4日に「愛知県農業会議創立60周年記念大会」が開催され、農業委員として15年以上活動した功績に対し、牧正行委員と福岡信久委員が愛知県農業会議会長表彰を受けました。



地域の農地をリフレッシュ!

～耕作放棄地再生利用交付金制度について～

荒廃した耕作放棄地を引き受けて作物生産を再開する農業者の方に、雑木・雑草・障害物の除去や、土づくりにかかる費用に対し交付金が支給される制度があります。耕作放棄地を活用して耕作をお考えの農業者の方は、市役所産業振興課農地係までご相談ください。

全国農業新聞

経営とくらしに役立つ情報をお届けします!
農家のための情報誌「全国農業新聞」

◆発行日 週一回(金曜)

◆発行元 全国農業会議所

◆購読料 月700円

お申込は、農業委員会事務局へご連絡ください。

●連絡・相談先 日進市農業委員会(日進市役所産業振興課内農業委員会事務局) 電話:0561-73-2197



この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

日進市農業委員会の取り組み

1 「農地法にもとづく許認可」と「農地利用状況調査」

農業委員会では、毎月委員会を開催し、農地の売買や貸借、転用等の議案審議及び議決と、農地パトロールを実施しています。今年度も市内の農振農用地とその周辺を対象に各委員が現地を確認する利用状況調査を実施しました。

本市でも農地所有者の様々な事情から農地の耕作放棄が進んでいます。違反転用に対しては指導を行い、遊休農地に対しては所有者の意向確認を実施し、「農地バンク制度」等の制度の活用を助言しています。

今後とも市内の農地の有効利用が図られるよう活動を行っていきます。



農地利用状況調査

2 「遊休農地の再生」と「食育」の実践活動

農業委員会では、遊休農地解消モデル事業を実践しています。浅田町・藤枝町・岩崎町・北新町地内において遊休農地を利用して、水稻・ジャガイモ・サツマイモ・玉ねぎ・大根・枝豆・スイカ等の作物を作付け・収穫をしています。

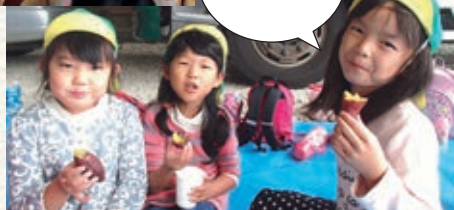
収穫した野菜の一部は市内の小学校・保育園で給食に活用されました。もち米は、市内保育園に寄贈し、園児とのもちつき大会へも参加しました。

また、委員の所有する農地において保育園児と玉ねぎやサツマイモ、柿の収穫体験を実施し、園児達に農作業の楽しさや、収穫の喜びを伝えていきます。

今後遊休農地の活用、食育事業を継続し、農や食の大切さを若い世代に伝えていきたいと思えます。



収穫したたまねぎでカレーうどん給食



さつまいも試食



たまねぎ収穫体験



さつまいも掘り体験

新規就農者の紹介

萩野 真吾(藤枝町)

はじめまして。この度新規就農しました萩野真吾と申します。

20代前半、生涯全うする仕事を考えていたところ、市で若手の農業後継者を探していたことを知り、「多くの人においしいと言ってもらえるトマトを作りたい」と思い、農業を仕事にしようと決意しました。

就農のために愛知県立農業大学校や美浜町のトマト農家で研修を積み、また市のアグリスクールにも通い、農業知識や経験を重ねました。

市の農地バンク制度により農地を借り、経営体育成支援事業や青年就農給付金などの制度を活用し、約1700㎡のハウスを建て、4000本程の大玉トマトの栽培をしています。

実際の感覚は想像していたトマトの栽培には程遠く、起業するためには何が必要なのか、どういう人付き合いをするのか、ハウスで植物を管理するとはどういうことなのかなど、従事してはじめてわかることばかりでした。

将来的には、日進市を拠点とした農業生産法人の設立を目指しています。今後とも地域の皆さまに美味しいトマトをお届けできるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



新任農業委員の紹介

福岡 晴代

私は飲食店を営んでいます。店で新鮮な無農薬野菜を提供したいと思い、野菜の栽培を始めて8年になります。収穫した野菜は店で提供するほか、JAなどの直売所にも届けています。

農業は天候不順や作付の失敗など、上手くできないこともありますが、実り多い収穫はかけがいのない喜びです。その面白さに魅了され、農業をライフワークとしてやっていきたいと思うようになりました。

農業委員として日進の自然豊かな環境をなくさず田畑を守っていく手助けが少しでもできたと思います。

加藤 末昭

貧しい農家の兄弟の末っ子に生をうけ、毎日毎日忙しく働く親父の背中を見て育ちました。学校の勉強より家の手伝いが最優先でした。所帯を



持ち、親からもらった少しかりの田畑を見よう見まねで自給自足、退職した今では毎日教科書を片手に額に汗して農作業を楽しんでいます。

今の農業は、農業従事者の高齢化や担い手の減少、遊休農地の増加等多くの課題を抱えています。日進の農地を守る農業委員として先輩の農業委員の皆さんのご指導を得ながら、地域農業の活性化の一助に知恵と汗を出して行動していきたいと考えております。